入門観光学実習Ⅱ

科目ナンバリング　TOS-106
選択　　2単位

山下　晋一

1. 授業の概要（ねらい）

本実習は観光学を、「より身近に」「より幅広く」「より主体的に」学ぶためのものである。日本の観光立国政策において重要な役割を果たす観光地域づくり法人（DMO)について、箱根の観光地域づくりを実例としてフィールドワークを通して実地で学びながら、日本政府が推進する観光立国政策と各地域が取り組む観光地域づくりの重要性を正しく把握する。秋期は箱根・小田原の観光地域づくりの取り組みをテーマとして、より実践的な授業を行うため、箱根・小田原においてフィールドワークを行う。本フィールドワークにおいて実地で調査、ヒアリングを実施し、箱根の観光地域づくりの課題、将来展望について考察することとする。
観光立国政策において早期の観光地経営人材の育成が強く求められている中で、本実習を通して、観光地経営を担うことができる人材の養成の一助とする。
観光地域づくりに取り組んでいる関係者をゲストスピーカーとして招聘し、現地の貴重な情報や知見を得ることでより深い実務知識の修得を行う。

2. 授業の到達目標

観光学並びに関連する学問分野における基礎を理解し、解説できる。
テーマに即したレポート作成、プレゼンテーション、調整、総括を行うことができる。
基礎的な課題認識、分析、課題解決手法を身につけ実践することができる。
社会人としてのマナー、対人スキルを身につけ実践することができる。

3. 成績評価の方法および基準

①レポートの内容、②プレゼンテーション内容、③学外実習及び授業内での取り組み度合④グループメンバーレビュー⑤課題提出状況・評点によって成績評価する。それぞれの評価割合は、①30%②25%③20%④5%⑤20%する。

4. 教科書・参考文献

教科書
テキストは指定しない。適宜資料を配付する。
参考文献
「観光白書」観光庁 HP
「旅行年報2020」日本交通公社 HP
デービッド・アトキンソン　「新・観光立国論」　東洋経済新聞社
「登録観光地域づくり法人「登録DMO」形成・確立計画」観光庁 HP

5. 準備学修の内容

観光学は幅広い分野に関わる学問であり、社会・経済状況を常に観光との関わりを通じて考える習慣を持つことが重要であり、新聞、ＴＶメデイアやＷＥＢ媒体などから主体的に問題意識を持って情報収集、分析に務めること。
研究テーマに対する知識の習得に継続的に取り組むこと。
課題については回答を取りまとめ期限厳守で提出すること。

6. その他履修上の注意事項

本実習は現場での実習を伴うことから少人数制での開講とし、受講生の上限15人をめどとする。受講生が多い場合には抽選により決定をする。そのため第1回の講義に出席しなければ、履修ができなくなる。学外実習の日時、集合場所、訪問先などについても初回の講義において説明する。学外実習費用の一部は学生個人の負担となるので留意すること。
授業の進行ならびに新型コロナウイルス感染状況等諸般の事情により、授業計画を変更する場合があるので、各回授業の説明に注意すること。

7. 授業内容

【第1回】　授業の全体構成の解説・前期の振り返り　グループ分け
【第2回】　観光立国政策と観光地域づくり
【第3回】　箱根町HOT21観光プランと箱根DMO
【第4回】　小田原市観光戦略ビジョンと小田原DMO
【第5回】　学外実習事前グループ研究
【第6回】　箱根・小田原フィールドワーク1
【第7回】　箱根・小田原フィールドワーク2
【第8回】　箱根・小田原フィールドワーク3
【第9回】　【オンライン授業】入門観光学実習レポート作成ノウハウ
【第10回】　グループ自主研究、グループレポート・パワーポイント資料作成1
【第11回】　グループ自主研究、グループレポート・パワーポイント資料作成2
【第12回】　グループレポート・パワーポイント資料ドラフト発表、討論
【第13回】　グループ自主研究、グループレポート・パワーポイント資料作成3
【第14回】　グループレポート・パワーポイント資料最終案発表、討論1
【第15回】　グループレポート・パワーポイント資料最終案発表、討論2、総括